

1977



義太夫協会々報
 第13号
 昭和52年8月20日
 社団法人 義太夫協会発行
 〒104 東京都中央区銀座
 6-18-2
 新橋劇場別館 TEL(541)5471

再考を!!

会長 吉川 英 史

会員皆様既に御承知の様に中学校音楽鑑賞曲の「木遣音頭の段」が削除されかゝっております。私共にとつては由々しき大事とも云えます。去る7月22日の理事会で意見書を提出することに決し、翌23日副会長が届けられました。ここにその全文を記して、会員皆様の御注意を喚起致します。

(全文)

中学校学習指導要領案

(音楽)に対する意見書

主旨 現行の指導要領では、第三学年の音楽鑑賞教材として指定されている義太夫節が、新しい指導要領案では削除されたことを遺憾とし、その復活を希望い

たします。

主旨の説明

義太夫節は語り物音楽の極地に到達したも
 のとして、その独特の芸術性は、海外の音楽
 学者の間でも、次第に高く評価されつつあり
 ます。人物や情景の精緻な語り分け、三味線
 の表現力の豊かさなど、日本が世界に誇るこ
 とのできる貴重な文化財といつても、過言で
 はありません。それなのに、一般国民はその
 価値を知らず、その存在さえも知らないとい
 う状態でした。
 先年の学習指導要領の改訂の際、文部省が
 その義太夫節を鑑賞教材に指定したことは、
 わが国の為すべき音楽教育への一歩前進とし
 て、識者の高く評価し歓迎したところであり

ます。わが社団法人義太夫協会も、その文部省の方針に協力し、学校巡演などで義太夫節の鑑賞教育の片棒をかついで参りました。
 一方、わが義太夫協会では、文化庁の援助を得て、義太夫節愛好者のために、毎年短期の連続講座「義太夫教室」を設け、実技と講義の二本立ての講習会を行つております。その受講生は大部分大学生を含む青年男女で、毎度四十名内外を数えます。この小さな義太夫ブームは、国立劇場の義太夫公演が近年いづも満員の盛況である事実とも呼応しますが、その原因は如何に解すべきでありませうか。中学校の鑑賞教材として播かれた義太夫節の種が、漸く稔りつつある現れと見るのは誇りでせうか。

ともかく、今回の指導要領(案)において、義太夫節が削除されていることは時代に逆行するものであり、音楽教育の後退であり、文化庁の伝統無形文化尊重の政策とも矛盾するものと考えます。

今回の改訂の基本に、授業時間の削減と、生徒の負担の軽減があることは了解いたしますが、軽減すべきは、知識教育の詰め込み授業であつて、情操教育は逆に増加すべきではありません。また、もし義太夫節が中学三年生にはむづかし過ぎるという声がありとすれば、それは授業の仕方の問題があるものと考えます。

要するに、今回の義太夫節削除の文部省の方針は、母国の文化を重要視する教育政策の後退、時代への逆行として、文部省当局の再考をお願い申し上げる次第であります。

昭和五十二年七月二十二日

文部大臣殿

社団法人 義太夫協会

残暑お見舞

副会長 豊沢仙広

石の上にも三年と申しますが、皆様の御支援により義太夫協会も社団法人設立後五年、良き会長をお迎えして、役員一同懸命の努力で何とか形が出来てきました。然し、これからが内容を充実させる大事な時だと存じます。今日(七月二十二日)の理事會に吉川先生はじめ種々の意見が出ましたが、徐々にその道が開けるものと思っております。

正會員の研究以外に賛助會員の皆様にも毎月二、三回新小松へお出かけになり大きな声を張りあげて健康づくりをして頂くのを、協会奉仕の一つにしたいものだと思っております。新小松の席は協会の稽古場として毎日十二時から四時まで、土曜は六時まで(日曜祭日は休み)九月から提供致しますが、會員の皆様、遠慮なく使用して頂くようお願い申し上げます。

プロの道を目指す教室出身・その他の新人達もこの二・三年、大分上達致しました。毎月の本牧亭二講座を勉強場所の後継者づくりを致しております。何分物価高で、本牧亭公演だけで年間二百万円

以上も赤字です。お客様や出演者の理解ある寄附金で何とか続けているのです。會員三百人の會費は事務所の経費で消えてしまいますので、後援会を作ってはとのお言葉もあるのですが、如何にしたらよいかと考慮中でございます。誰方様か良い知恵を拝借したいものとお待ち申し上げます。

文化庁助成の義太夫教室は、会長の御尽力で今年も生徒さんが喜んで教えを受けておられます。この卒業生は皆、義太夫ファンになってくれるのだと思えば、義太夫節発展の為こんな喜ばしいことはいりません。日本独特の古典芸術が大分見直されてきつつあるのを喜びとして役員一同一生懸命協会の仕事に励んでおります。

會員の皆様、日本人らしい人間造りに協力するのだと思召して、義太夫協会の仕事に御後援賜ります様、伏してお願い申し上げます。第二は義太夫勉強にお励み下さいます様、お願い申し上げます。

貸借対照表 (52.3.31現在)

勘定科目	借方	勘定科目	貸方
現金	160,494	基本金	3,000,000
在預金	128,134	運用財産	1,100,000
高預金	3,000,000	受入金	94,000
金預貯金	400	借入金	1,530,000
郵便振替	5,005	預未払	1,216,680
郵便振替	7,435	繰越損	3,911,390
未収金	2,506,690	小計	△2,326,449
仮払金	0	差引損益	△5,141,110
立替金	9,900		
数品	200,000		
備品	867,565		
電話加入権	73,438		
電謝金	1,052,450		
合計	8,011,511	合計	8,011,511

社団法人義太夫協会
昭和51年度収支決算報告

1977. 8. 20

義太夫協会々報

第13号

損益計算書

(51・4・1～52・3・31)

収入の部	科目	支出の部	差引損益
1,700,000	助成金		
4,832,412	寄附金		
1,186,500	会費		
143,750	芸団協		
306,226	預金利息		
9,000	雑収入		
(8,177,888)	(小計)		
	事務所費	22,915	
	家賃	360,000	
	事務用品費	26,430	
	事務費	15,422	
	給料・諸手当	897,800	
	交通費	104,810	
	通信費	206,843	
	交際・慶弔費	224,330	
	会議費	51,070	
	消耗費	7,000	
	水道光熱費	21,665	
	倉敷料	55,000	
	印刷費	299,240	
	諸税公課	3,000	
	手数料	5,540	
	会費	55,000	
	伝費	5,000	
	講読料	13,350	
	会報	108,500	
	諸雑費	23,750	
	(小計)	(2,506,665)	
714,500	義太夫教室	3,188,842	△2,474,342
1,106,500	協会公演会	3,305,950	△2,199,450
200,000	学校巡演会	1,175,680	△975,680
88,000	教師講習会	705,020	△617,020
367,029	慈善公演会	336,110	30,919
102,580	賛助会員会	261,840	△159,260
84,000	新年会	94,000	△10,000
579,200	都邦楽祭	306,170	273,030
3,500	祖先祭	57,030	△53,530
(3,245,309)	(小計)	(9,430,642)	△6,185,333
11,423,197	合計	11,937,307	△514,110

協会の動き

昭和52年3月より昭和52年8月まで

〔昭和五十一年度〕

3月20日 義太夫協会公演会 竹本朝輝が初舞台、「鳴門」を語る。於本牧亭

3月21日 義太夫協会公演会（芸団協新人奨励賞受賞記念）。本年度は竹本素丸・野沢松江が受賞、表彰式が幕間に行われた。於本牧亭。

3月22日 芸団協第三回功労者表彰式

義太夫協会からは鶴沢三生参与が「永年芸能に精進されると共に所属団体の発展に貢献した」ことで受賞され、その表彰式が銀座東急ホテルで行われ、表彰状と記念品が授与された。

3月29日 東横名韻会学生邦楽大会に、義太夫教室生徒とOBが出演、「由留木館」「道中双六」を演奏した。指導竹本弥乃太夫、於東横ホール 義太夫教室51年度（第29期）終了

〔昭和五十二年度〕

4月8日 文化庁に芸術関係団体補助事業実績報告書を提出。

4月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭 故竹本小土佐師を偲ぶ会 主催大宮市、協賛協会で開催。野崎、鳴門、柳、寺子屋、日高川（八王子車人形出演）を女流二十名で熱演。

4月25日 大宮市秦市長の挨拶もあり、満員の盛況であった。於大宮市民会館 豊沢猿幸師を励ます会 主催猿幸後援会、竹本土佐広師、共賛協会で行われた。会員皆様の多大の御協力を感謝致します。於本牧亭

4月30日 文化庁よりの芸術関係団体補助事業助成金 二万円交付さる。

5月20・21日 義太夫協会公演会 於本牧亭 定例理事会 51年度事業報告、52年度事業計画及び予算案他、総会打合せ等。於新小松

5月31日

文化庁助成による義太夫教室第30期開講。開講式の後、直ちに講義、実技実習に入る。45名入講。於俳優協会稽古場。

6月9日

昭和52年度総会 会長・副会長挨拶。51年度事業報告、決算報告（②・③頁参照）。51年度事業計画、予算案を審議・可決。次いで役員改選、別表（⑥頁）の役員が選出された。於新橋演舞場三階大食堂。

6月20・21日

義太夫協会公演会 21日には八王子車人形が出演。於本牧亭

6月22日

定例理事会 52年度事業計画の打合せその他 於新小松

7月20日

義太夫協会公演会 於本牧亭

7月21日

鶴沢三生師芸団協功労者受賞記念会 吉川会長の挨拶、三生師は

7月22日

酒屋・野崎を演奏した。於本牧亭 定例理事会 役職・業務分担（⑥頁参照）決定他。於新小松

7月23日

中学校学習指導要領案（音楽）に対する意見書（①頁参照）を文部省に提出。

7月28日

義太夫教室第30期初級閉講式

8月9日

義太夫教室第30期中級語りコース開始。於俳優協会稽古場

8月20日

会報第13号発行

『伝承資料としての』

曲節メモ

竹本弥乃太夫

義太夫節には数多くの曲節がある。その中には、竹本義太夫自身が作った曲節や、声明、平曲、古浄るり等の語り物の系譜から出て、その影響をうけて、いわゆる義太夫化した語り物音楽や、当時流行の俗謡や祭文や説経等の芸能音楽を採入れ、アレンジした曲節等で網羅されている。その複雑さは勿論のこと、面白さ又格別といえよう。その義太夫節が誕生した年、即ち、竹本義太夫が竹本座を創立した年が、貞亨元年（一六八四）という事で「色はよい」と覚えるといふ、と教室で話した、意外と年数を数えたりするのに役立つ。因みに竹本義太夫が三十五才の時だそうである。以来今日までの、三百年になんなんとする間、名人上手といわれる人達が、口伝から口伝へと、故人の芸を伝承して来た。その時代その時代で、一つの幹から枝葉が分れるごとく、曲節はかなり大きく変化し、時には新たな曲が採取され又、考案されて現在に至っている。そんな具合で、確たる楽譜がなく、

全てが伝承芸術であるから、義太夫節の古曲としての絶対性には、欠けるものがある。一人の名演奏家の芸をきくという場合、それはその人が受継いだ芸の伝承であって、それが古曲の絶対性という事にはならない。研究する余地が無限に残されている、今、そんな立場で、こんな事を考えてみた。多くの義太夫人が、それぞれの系列から、例えば曲節について、此れは斯ういう意味がある、又斯ういうふうな弾けと教えられた、等々、師匠から口伝という形で伝承されて来た貴重な資料を、取纏めて保存、又は活用する方法はないものだろうか……という事である。私は私なりに以前から曲節の研究をしている。活字本として発行されている各種の資料集成などに、書かれているが、極めてポピュラーな、現行の義太夫節になじみの多い曲節から選んで、”曲節メモ”として毎回少しづつ紹介してみたいと思う。（その点、故野沢吉二郎師は、此の方面には詳しい研究家であった。）

あと、お身の難儀のその訳を、どうぞ聞かして下さりませ、申し申しと 延び上り
。壺坂の沢市内の、お里の手を引いて此れから寺へ行くところで、身拵えさせそこそこいたわり渡す細杖の、細き心も細からぬ
。箱根靈験記の心斗りは勝五郎
。花上野志度寺のへいかに頭是がないとても……大体共通した手が使われていることにお気付きと思う。ザンガイ、何とユニークな曲名ではないだろうか。

寄 贈

会員の皆様の御寄贈に感謝致しております。貴重な資料も相当集まりましたので、徐々に整備をすすめているところです。相変わらぬのがコマ不足で、教室でも虫喰いだらけの使用している有様です。誰方が御提供下さる方はいらっしゃらないでしょうか。暖かい御支援を心からお願ひ申し上げる次第です。

◎伐 害（バツカイ） 普通はザンガイと呼んでいる。又名、片輪節ともいう。それは此の節が、盲目やいざり等片輪の者の動作や感情に使われているからである。なぜザンガイというのかは解らない。実例を挙げると、
。安達原三段目の袖萩祭文で、祭文が終った

- | | | |
|--------|-------------|-----|
| 鶴沢 成佳様 | 木バチ | 一丁 |
| 渡辺 隅近様 | 五行本 | 六五冊 |
| 弘田久次郎様 | 義太夫大鑑・上 | 一冊 |
| 竹本藤太夫様 | 三味線 | 一挺 |
| 豊沢 重松様 | 義太夫全集 上・中・下 | 一丁 |
| | 木バチ | 一丁 |

新役員決定

去る六月九日、定例総会にて左記の新役員、七月二十二日の定例理事会にて各業務の担当者が決定いたしました。今後三年間このメンバーで運営して参ります。

役職一覽(各五十音順)

業務分担

会長	吉川 英史	相談役	豊沢猿三郎	一、研修部	(技能向上及び後進育成の為の機関)
副会長	豊沢 仙広	1. 本行部門	竹本土佐広・鶴沢 重造
常務理事	竹本 越道	参与	竹本 糸三	2. 舞踊部門	竹本弥乃太夫・野沢吉平
	竹本弥乃太夫		竹本重之助	3. 歌舞伎部門	竹本扇太夫・鶴沢絃二郎
	野沢 吉平		鶴沢 三生	二、普及部	(義太夫教室・学校巡演・教師のための義太夫講習会)
	竹本 朝重		豊沢 猿幸		
	竹本綾太夫		
	竹本綾之助	参事	竹本 綾一		
	竹本扇太夫		竹本 綾司		
	竹本 光末		竹本 越春	三、公演部	
	竹本駒之助		竹本土佐菊		
	竹本 駒龍		豊沢 公佳	(企画担当)	竹本 越春・竹本 越道
	竹本 春華		豊沢 公治	(運営担当)	竹本 素八
	竹本土佐広		豊沢 公純		竹本駒之助・竹本 駒龍
	竹本 素八		竹本 春華
	鶴沢駒登久	事務局	竹本綾太夫	四、編集部(会報その他)	竹本 朝重
	鶴沢絃二郎	常勤	水野 悠子	五、資料部(資料の整備・保存)	
	鶴沢津賀昇	非常勤	竹本 素丸		竹本綾之助・竹本弥乃太夫
	佐佐木明郎	職員	豊竹公二郎	六、経理部(協会経理の監督)	竹本弥乃太夫
	鶴沢 重造			七、渉外部(外部団体その他との交渉)	竹本 朝重・豊沢 仙広

学校巡演レポート雑感

(投稿)

桑原須賀夫

会報(第十一・十二号合併号)に掲載せられた学校巡演レポート(3)(東京女子学園二・三年生アンケート結果)を拝読し、いろいろ教へられることも多く、また私自身思ふところもあつて、局外者として僭越なやうですが一言愚見を申述べさせて戴きたいと思ひます。一読して何より気になつたのは、解答者の多くが、唯たんに邦楽や古典に関心を持たないといふことよりも、その理由として、古典には共感し得るものが何もない、古典は現在の自分たちの生活とは関係がない、と思ひ込んでゐることです。かうした考え方が、「日本の文化を残しても人間にとって少しの益にもならない」(三年生)という「名解答」を引き出す前提となる訳であります。何故なら、「自分たちの生活に関係ない」ものなら、それを「残しても人間にとって少しの益にもならない」と考へるのは当然すぎるほど当然なことだからであります。それでは一体何故、現代の若者たちの間にかういふ気分が支配的になつたのでせうか。理由は至極かんたんであります。戦後の学校教育で、古典や歴史が不当に軽視され続けてきたからであります。周知の通り、古典は国語科の一部、歴史は社会科の一部として、辛ふじて存在を許され、近年僅に是正されたやうなもの、戦後の長

い間古典と歴史は、戦前の1/3の授業時間しか与へられなかつたのであります。ために教師は自信を失ひ、コムプレックスの塊となつて教育に愛情や熱意を抱き得ず、無味乾燥な受験文法と「史実」の列挙にお茶を濁すばかりはなかつたのであります。これで古典軽視、歴史蔑視の風潮が生じなければ不思議であります。私ごとで恐縮ですが、高等学校の古典や歴史といふと、私は、「お昼寝」か「内職」と決めてゐて、お蔭でいつも落第点はかり貰つてをりました。

再び問ふ。何故学校教育で古典や歴史が軽んぜられたのか。これまた理由は明かであります。明治以降、近代化の荒波の中で、新政府は、欧米先進諸国への「追ひ付け追ひ越せ」式ハイカラ教育に急なあまり、新しい知識や技術の輸入に役立たない古典や歴史を無視し切捨ててきたからに他なりません。戦後は敗戦のショックから、「古いものは悪いもの」「日本の歴史はこれから始まる」などといった、まことに浅はかな文化観、歴史観が流行し、それに国語国字改革(悪)が拍車をかけた事実、今日通念にさへなつてをります。

かうして、(私をも含め)現代人は、古典や歴史と言へば、学者かディレクタントの専用物、さうでなくとも自分たちとは何のか、はりもない、過ぎ去つた速い過去のもの、と思ひ込むに至つた訳であります。実は、私も彼女たちの年代には五十歩百歩、似たやうな考へ方をしてをりました。私に彼女たちの浅見を嗤ふ資格はないので、義太夫や歌舞伎も

自分とはまるで別世界のこととしか思はず、そんな私が眼をひらかれたのは、後年、三島由紀夫氏の感化によるのですが、それとは別一つ強烈な舞台の印象が近因のやうに思はれます。それは時も場所もすっかり忘れてしまひましたが、歌舞伎の「忠臣蔵九段目」で加古川本蔵の生き方(或は死に方)に触れて非常に感動を覚えたこととあります。私はこのときまで「忠臣蔵」は映画しか知らず、本蔵といふ人物に就いて何も知るところがなかつたにもかかはらず、本蔵が力弥の槍に刺されて所謂手負の述解となるに及んで、私は、松の廊下の事件以来、本蔵が死に場所を求めて生きながらへ、一年ののち、雪の更科で正に自刃ともいふべき美事な死を遂げたのを視て強く心を打たれたのであります。私はそれまで自己の内部に義太夫や歌舞伎に共感し得るものがあらうとは思つてはをりませんでしたから、さうした事実が大変おどろきました。そして私なりにあれこれ考へた末、私が古典や歴史に共感し得るものはない、と思ひ込んでゐたのは錯覚ではなかつたか。それは無知からくる思ひ上がりに過ぎないのではないか、と思はざるを得なくなつたのであります。かうした私の疑念は小林秀雄、福田恆存の両氏により決定的なものとなりました。福田氏は私の最も尊敬する文学者でありましたが、氏は「伝統にたいする心構」と言ふ評論の中で次の様に述べてをります。

「私たちの精神の内部には、現代の意識によつて照しだされぬ暗い無意識の世界が深く

澱んでゐるのです。その無意識の世界を照しだし、それに生氣を興へるのが歴史、あるひは古典といふものではないでせうか。もしそれが歴史や古典によつて生氣を興へられず、暗い世界に閉ぢこめられたままであると、その澱んだ水はいつしか腐つてゆき、毒気を発するやうになります。さうなれば、過去は過ぎ去つて今は無いものであるどころか、腐つたまま今なほ存在するものであつて、その今を毒するものとなりませう」

私が歌舞伎の名作に出合ひ、古典の世界に眼を開くことができたのは僥倖だつた訳であります。しかし、現代の私たちが古典や歴史とつきあふのは決して容易なことではありません。それは生きた人間とのつきあひと同様の忍耐を必要とします。それはなにより、古典や歴史が生きものだからであります。つまらない先入見やエゴイズムを捨てたとき、古典や歴史は私たちの「暗い無意識の世界を照しだし、それに生氣を興へ」てくれるのではないでせうか。

最後に、文楽、歌舞伎をテレビでしか見たことがない、もつとテレビで視たい、と考へてゐる人がかなりをりますが、私の浅い経験からしても、舞台の感動は生の舞台をはなれてはあり得ないもの、と私は考へてをります。第一、寝ころんで、煎餅を嚼りながら、古典や歴史との「出合ひ」を望むのは、余りに虫がよすぎるといふものではないでせうか。

さういふ意味で、私は学校巡演、義太夫教室に期待するところ大であります。

寄附 (昭和51年度)

(特別会員・賛助会員の部)

- 都築八郎 (入船堂) 様 一四〇、〇〇〇円
 - 内野 正幸様 五〇、〇〇〇円
 - 吉田幸三郎様 四〇、〇〇〇円
 - 鈴木 一光様 二〇、〇〇〇円
 - 竹尾 一休様 二〇、〇〇〇円
 - 菊地 秋月様 一〇、〇〇〇円
 - 伊藤 孝子様 二、〇〇〇円
- ※慈善公演については前号を御参照下さい。

特別会費二口以上の方

- (51年4月1日〜52年3月31日扱い分)
- 内野 正幸様 (51年度10口) 五〇、〇〇〇円
- 鈴木 一光様 (51年度10口) 五〇、〇〇〇円
- 石塚 晃玉様 (52年度2口) 一〇、〇〇〇円
- 小田切一鳳様 (51年度2口) 一〇、〇〇〇円
- 景山 正隆様 (51年度2口) 一〇、〇〇〇円
- 加藤 利一様 (51年度2口) 一〇、〇〇〇円
- 菅野 光雄様 (51年度2口) 一〇、〇〇〇円
- 斉藤 義勝様 (51年度2口) 一〇、〇〇〇円
- 菅 邦夫様 (51年度2口) 一〇、〇〇〇円
- (52年度2口) 一〇、〇〇〇円

芸能人年金に特別措置

60才以上の方も10月いっぱいには加入できます

協会でもたびたびおすすめている芸能人年金が、加入特例期間として、この10月いっぱいなら60才以上の方(但、一〇一、〇〇〇円五口以上)でも加入することができます。

発足以来五年目に入り、会員の中にも休業手当(14日以上休業の時、一日一、〇〇〇円77日まで)等の共済制度のお世話になった人が沢山あります。掛金は掛けずてはありま

せん。万一やめる場合には、払い込んだ全額を5.5%の複利計算するという安心なものです。65才になると、払込年数と口数に応じた積立年金プラス年額二四、〇〇〇円の荣誉年金

(これは芸団協が負担するもので掛金には手をつけません)とが生涯支払われるのです。すでに基金も三億円を突破、基金が増えればそれだけ共通の利益も大きくなります。月額一口、一、〇〇〇円、毎年10月に口数の増減ができますから、一口からでも結構です。

加入希望の方、お問合せは事務局または芸団協年金部(五〇一)五七七二まで

特に60才以上の方はお急ぎ下さい。

会費お払込みのお願い

先日文書にて会費お払込みのお願いをいたしました。が、五十二年度未払いの方は、なるべく早く御送金下さいませよう。(郵便振替 東京四一〇〇六八四)文化庁助成の義太夫教室等、事業の方は順調に進んでおりますが、助成金のおりが次年度に入ってからですので、その間が経理部の腕の見せどころ(?)になります。どうかよろしくお願い致します。

訂正

前号10頁記載の竹本難太夫さんの住所は左のとおりです。編集部の手違いにより御迷惑をおかけして申し訳ありません。お詫びして訂正いたします。

編集後記

残暑お見舞申し上げます。連日の真夏日や熱帯夜づくしに数字や報告事項の並んだ会報をお届けするのもいささか心苦しいのですが、どうか悪しからず御了承下さい。

前号掲載の学校巡演レポートには、多くの感想が寄せられて、編集部としてはうれしい思いをいたしました。本号を御覧になった会員各位の御意見、御感想をお聞かせ頂ければ幸いです。